

洪水・土砂災害

大雨などにより、川の水量の増加や地中にしみこんだ水分などが起因となり、大きな災害に発展する場合があります。事前にその災害のメカニズムを理解し、身近に起こりえる災害に対応しましょう。

川の氾濫

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

● 外水氾濫 ●

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える。あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増すので、最大の注意が必要。



● 内水氾濫 ●

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはきれずに溜まっておきる洪水。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要。



土砂災害

土砂災害警戒情報が発表されていなくても、ふだんと異なる状況「土砂災害の前兆」に気づいた場合には、直ちに周りの人と安全な場所へ避難しましょう。また、日ごろから危険箇所や避難所・避難場所・避難経路を確認しておくことも重要です。

がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20～40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土塊量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

洪水ハザード情報について

以下の情報を参考に、洪水時における対応についてあらかじめ確認しておきましょう。

1 河川水位及び危険度レベル

レベル	水位	町や住民に求める行動
5	氾濫の発生	・町および住民は、新たにはん濫が及ぶ区域で避難の判断が必要
4 (危険)	氾濫危険水位	・住民の避難完了
3 (警戒)	避難判断水位	・町は避難勧告等の発令を判断 ・住民は避難を判断 ↓ 避難勧告等の発令
2 (注意)	氾濫注意水位	・町は避難準備情報発令（避難準備・高齢者等避難開始）を判断 ・住民は氾濫に関する情報に注意 ・水防団出動 ↓ 避難準備・高齢者等避難開始情報の発令
1	水防団待機水位	・水防団待機

大雨時に河川情報を知るためには

「QRコード」を利用して新規登録をして下さい。

登録にて防災情報を確認できたり、雨・水位情報を受信することができます。 ※ QRコードは㈱デンソーウェーブの登録商標です。



●川の防災情報

自分の気になる場所の川の防災情報を確認できます。

<http://i.river.go.jp/>



●佐賀県防災ネットあんあん

地域の防災情報を取得できます。詳しくは佐賀県HPを

<http://esam.jp>



●武雄河川事務所（雨量・水位リアルタイム情報）

六角川の現在の様子をインターネットでご覧いただけます。

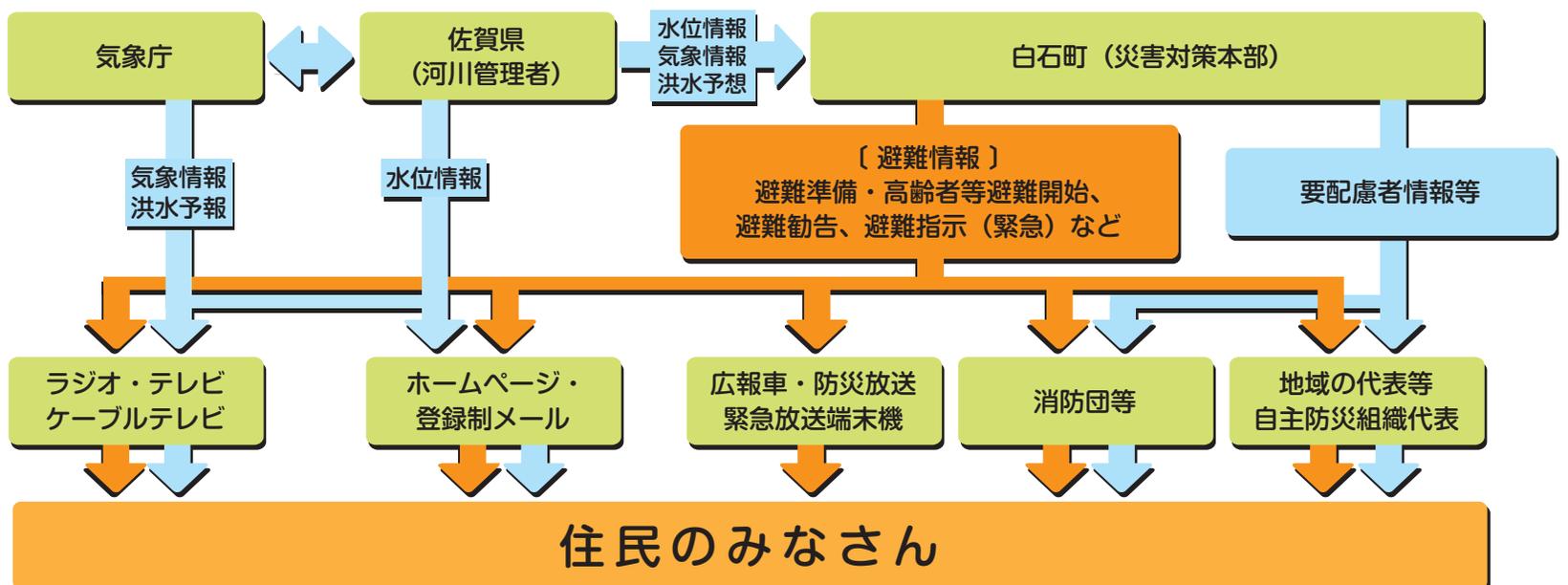
国土交通省 九州地方整備局 武雄河川事務所

「武雄河川事務所」検索で「防災インフォメーション」を選択すると河川の情報を確認できます。

佐賀県の防災情報を集めた九州防災ポータルサイト（佐賀エリア）も便利です。

2 洪水情報の伝達ルート

●気象の異常に対して、下図の伝達ルートで皆さんへお知らせします。



情報がなくても、異常気象（雷雨や異常な降雨）を感じたときには、避難の準備が必要です。危険を感じたときには、速やかに避難しましょう。

特別警報をご存知ですか？

特別警報は、大規模な災害の発生が切迫していることをお知らせする新しい警報です。普段からの備えと早め早めの行動があなたや身近な人の命を守ります。

特別警報の発表基準

現象の種類	基準	
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合	
暴風	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により	
高潮		暴風が吹くと予想される場合
波浪		高潮になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合	
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合	

※表中の“数十年に一度”の現象に相当する降水量等の客観的な指標は気象庁ホームページで公表しています。

大津波警報などを特別警報に位置づけます

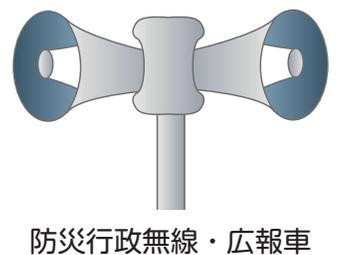
現象の種類	基準
津波	高いところで3メートルを超える津波が予想される場合（大津波警報を特別警報に位置づける）
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合（噴火警報（噴火警戒レベル4以上）及び噴火警報（居住地域）を特別警報に位置づける）
地震（地震動）	震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合（緊急地震速報（震度6弱以上）を特別警報に位置づける）

特別警報が発表されたら

- ◆尋常でない大雨や津波などが予想されています。
- ◆重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ◆ただちに身を守るために最善を尽くしてください。

命を守るために情報の収集に努めてください

特別警報は、自治体や報道機関を通じて伝えられます。テレビやインターネット、自治体から発信される情報の収集に努めてください。



「特別警報が発表されない」は「災害が発生しない」ではありません。特別警報が発表されないからといって安心することは禁物です。

これまでどおり注意報、警報、その他の気象情報を活用し、早めの行動をとることが大切です。普段から避難場所や避難経路を確認しておきましょう。

※気象庁ホームページより一部を抜粋して掲載

「特別警報」については、佐賀地方気象台ホームページに詳細が掲載されていますので、ご確認ください。

佐賀地方気象台

〒840-0801 佐賀県佐賀市駅前中央 3-3-20（佐賀第2合同庁舎8階）
電話：0952-32-7025
佐賀地方気象台ホームページ
<http://www.jma-net.go.jp/saga/>

災害用伝言ダイヤルの使い方

災害用伝言ダイヤルとは？

NTTでは、災害発生時に、被災地への通話がつながりにくい状況の場合、被災地内の安否などの情報を音声で録音、再生する「災害用伝言ダイヤル」を設置します。

伝言の録音	171-1-●●●●-●●-●●●●●●●●	(自宅の電話番号、または連絡を取りたい方の電話番号)	伝言保存期間	提供終了まで
伝言の再生	171-2-●●●●-●●-●●●●●●●●		伝言蓄積数	1電話番号あたり1～20伝言
伝言内容(時間)	1伝言あたり30秒以内		利用可能電話	加入電話、ISDN、ひかり電話、公衆電話、携帯電話(一部除く)等